

AQUOS sense9

取扱説明書 詳細版

2024年11月第1版

主な仕様

■本体

ディスプレイ	約6.1インチ、約1,677万色、ProlGZO OLED、2,340×1,080(FHD+)
重量	約166g(内蔵電池含む)
サイズ(幅×高さ×厚さ)	約73mm×149mm×8.9mm(最厚部:約10.5mm)
メモリ(内蔵)	RAM:約6GB Internal Storage:約128GB
連続通話時間(国内)	約2,630分
連続待受時間(国内)	約680時間
Wi-Fi®テザリング最大接続数	10台
充電時間	ACアダプター SH-AC05(別売)使用時:約100分
撮影素子	標準カメラ、広角カメラ、インカメラ CMOSイメージセンサー
有効画素数	標準カメラ 約5,030万画素 広角カメラ 約5,030万画素 インカメラ 約3,200万画素
Bluetooth®機能	通信方式:Bluetooth®標準規格Ver.5.1 出力:Bluetooth®標準規格 BR/EDR; Power Class 1, LE; Power Class 1.5 通信距離*1:見通しの良い状態で10m以内 対応Bluetooth®プロファイル*2:HSP, HFP, A2DP, AVRCP, OPP, SPP, PBAP*3, HID, PAN (PAN-NAP), PAN(PANU)、HOGP*4 使用周波数帯:2.4GHz帯
ネットワーク環境	IEEE802.11a/b/g/n(2.4GHz/5GHz)*5/ ac*5*6準拠
インターフェース	USB Type-C端子

- ※1 通信機器間の障害物や電波状態により変化します。
※2 Bluetooth®機器同士の使用目的に応じた仕様のごとく、Bluetooth®標準規格で定められています。
※3 連絡帳データの内容によっては、相手側の機器で正しく表示されない場合があります。
※4 Bluetooth®標準規格Ver.4.0に対応したプロファイルとなります。
※5 MIMOは未対応です。
※6 MU-MIMO(Clientモード)に対応しています。
(対応商品については各社ホームページをご覧ください。)

◎連続通話時間・連続待受時間は、充電状態・気温などの使用環境・使用場所の電波状態・機能の設定などによって半分以下になることもあります。

■クイックスイッチアダプター(試供品)

サイズ(幅×高さ×厚さ)	約15mm×32mm×7.2mm
※縦置き時	
重量	約4.6g

別売品について

本製品に対応する別売品については、次のサイトをご覧ください。
<https://k-tai.sharp.co.jp/support/r/aquos-sense9/index.html>

本書の表記方法について

■項目/アイコン/キーなどを選択する操作の表記方法について

本書では、操作手順を以下のように表記しています。

表記	意味
ホーム画面→[アプリ一覧画面]を表示→[設定]→[デバイス情報]	AQUOS Home画面で画面を上へスワイプ*1してアプリ一覧画面に切り替え、次に「[設定]」をタップ*2します。続けて「[デバイス情報]」をタップします。

- ※1 スワイプとは、ディスプレイに軽く触れたまま目的の方向や位置へなぞる動作です。
※2 タップとは、ディスプレイに表示されているキーやアイコンを指で軽く叩いて選択する動作です。

SIMについて

本製品はeSIM(ダウンロード型SIM)とnanoSIMカードに対応しています。モバイルデータ通信や音声通話発信、SMSの送信などの操作にどちらのSIMを使うか選択できます。

■eSIMについて

本製品は、お客様の電話番号などの情報を登録するeSIMに対応しています。eSIMのご利用には設定が必要です。

- eSIMの追加設定につきましては、eSIMの提供元までお問い合わせください。

■SIMカードについて

SIMカードにはお客様の電話番号などが記録されています。本製品はSIMロック解除の手続きは不要です。

通話料についてのご注意

通話を終了される際は、通話終了の操作を行って確実に通話が切断されていることをご確認ください。通話の切り忘れにより、通話料が高額になる場合があります。

初期設定を行う

お買い上げ時、初めて本製品の電源を入れたときや、初期設定にリセットを実行後は、自動的に初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って、各機能の設定を行います。

設定する機能は、操作する条件などにより異なる場合があります。

1 言語を選択→[開始]

eSIMの使用について確認画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。

- SIMカード/eSIMの2種類をご使用の場合、モバイルデータ通信や音声通話発信、SMSの送信などの操作にどちらのSIMを使うか選択できます。

2 Wi-Fi®接続を設定

3 セットアップ方法を選択

以前に使用していたスマートフォンからデータを引き継ぐことができます。「次へ」をタップし、画面の指示に従って操作してください。

4 Google™アカウントを設定

5 Google サービスなどの内容を確認/設定

6 端末のロックを設定

7 Google アシスタント、Google Pay™について確認/設定

8 ソフトウェア更新について確認

9 My AQUOSについて確認/設定

10 その他の項目について確認/設定

◎セットアップ中断の確認画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。

Bluetooth®／無線LAN(Wi-Fi®)機能をご使用の場合のお願い

Bluetooth®についてのお願い

- 本製品のBluetooth®機能は日本国内規格、FCC規格およびEC指令に準拠し、認定を取得しています。
- 一部の国／地域ではBluetooth®機能の使用が制限されることがあります。海外でご利用になる場合は、その国／地域の法規制などの条件をご確認ください。
- 無線LAN(Wi-Fi®)やBluetooth®機器が使用する2.4GHz帯は、さまざまな機器が共有して使用する電波帯です。そのため、Bluetooth®機器は、同じ電波帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を使用していますが、場合によっては他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断することがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、接続する機器により、通信速度や通信距離は異なります。

無線LAN(Wi-Fi®)についてのお願い

- 本製品の無線LAN(Wi-Fi®)機能は、日本国内規格、FCC規格およびEC指令に準拠し、認定を取得しています。
- 一部の国／地域では無線LAN(Wi-Fi®)機能の使用が制限されることがあります。海外でご利用になる場合は、その国／地域の法規制などの条件をご確認ください。
- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなったりすることがあります(特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります)。
- テレビ、ラジオなどの近くで使用すると受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れたりすることがあります。
- 近くに複数の無線LAN(Wi-Fi®)アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 通信機器間の距離や障害物、接続する機器により、通信速度や通信距離は異なります。

周波数帯について

本製品のBluetooth®機能および無線LAN(Wi-Fi®)機能(2.4GHz帯)は、2.4GHz帯の2.402GHzから2.480GHzまでの周波数を使用します。本製品で以下の操作を行うことで、周波数帯に関する情報をご確認いただくことができます。

ホーム画面→「アプリ一覧画面」を表示→「設定」→「デバイス情報」→「規制ラベル」
● Bluetooth®機能: 2.4FH4/XX8

2.4FH4/XX8

本製品は2.4GHz帯を使用します。

FH4は変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は約40m以下です。XX8はその他方式を採用し、与干渉距離は約80m以下です。

移動体識別装置の帯域を回避することはできません。

- 無線LAN(Wi-Fi®)機能: 2.4DS/OF4

2.4DS/OF4

本製品は2.4GHz帯を使用します。

変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。与干渉距離は約40m以下です。

移動体識別装置の帯域を回避することが可能です。

本製品の2.4GHz帯の無線LAN(Wi-Fi®)で使用できるチャンネルは、1~13です。利用可能なチャンネルは、国により異なります。

航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

Bluetooth®機能ご使用上の注意

本製品のBluetooth®機能の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器の他、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「ほかの無線局」と略す)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「ほかの無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「ほかの無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

2.4GHz帯無線LAN(Wi-Fi®)ご使用上の注意

本製品の無線LAN(Wi-Fi®)機能の使用周波数は、2.4GHz帯、5GHz帯です。2.4GHzの周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器の他、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「ほかの無線局」と略す)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「ほかの無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「ほかの無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

5GHz帯無線LAN(Wi-Fi®)機能ご使用上の注意

5GHzの周波数帯においては、5.2GHz/5.3GHz/5.6GHz帯(W52/W53/W56)の3種類のチャンネルを使用することができます。

- W52(5.2GHz帯/36、40、44、48ch)
- W53(5.3GHz帯/52、56、60、64ch)
- W56(5.6GHz帯/100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140、144ch)

5.2GHz/5.3GHz帯無線LANの屋外利用は法律で禁止されています(5.2GHz帯高出力データ通信システムのアクセスポイント/中継局と通信する場合を除く)。

- 本製品はすべてのBluetooth®、無線LAN(Wi-Fi®)対応機器との接続動作を確認したものではありません。したがって、すべてのBluetooth®、無線LAN(Wi-Fi®)対応機器との動作を保証するものではありません。
- 無線通信時のセキュリティとして、Bluetooth®、無線LAN(Wi-Fi®)の標準仕様に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分でない場合が考えられます。Bluetooth®、無線LAN(Wi-Fi®)によるデータ通信を行う際はご注意ください。
- 無線LAN(Wi-Fi®)は、電波を利用して情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者により不正に侵入されるなどの行為をされてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。
- Bluetooth®、無線LAN(Wi-Fi®)通信時に発生したデータおよび情報の漏洩につきましては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- Bluetooth®と無線LAN(Wi-Fi®)は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、無線LAN(Wi-Fi®)のいずれかの使用を中止してください。

おサイフケータイおよびNFCリーダー／ライターについて

- 本製品のおサイフケータイおよびNFCリーダー／ライター機能は電波法に規定する誘導式読み書き通信設備の型式指定を受けています。
- 使用周波数は13.56MHz帯です。周囲で他のおサイフケータイおよびNFCリーダー／ライター機能をご利用の場合、十分に離してお使いください。
- また、他の同一周波数帯を利用の無線局が近くでないことを確認してお使いください。
- 航空機内の利用は、事前に各航空会社へご確認ください。ご利用の国によっては利用が制限されている場合があります。
- その国／地域の法規制などの条件を確認の上、ご利用ください。
- 型式指定は、次の手順でご確認いただけます。
ホーム画面→「アプリ一覧画面」を表示→「設定」→「デバイス情報」→「規制ラベル」

防水／防塵／耐衝撃性能について

防水／防塵性能を維持するために

防水／防塵性能を維持するため、異常の有無にかかわらず、2年に1回部品を交換することをおすすめします(有償)。

■ 水に濡れた時の水抜きについて

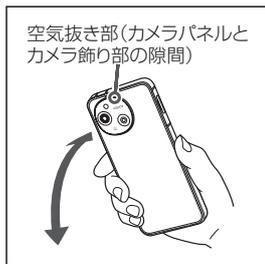
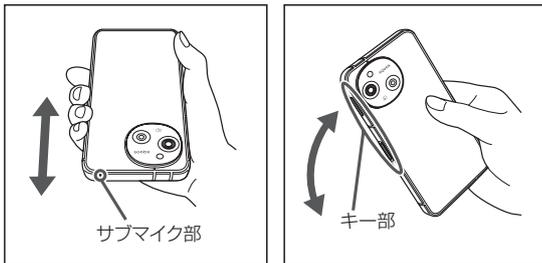
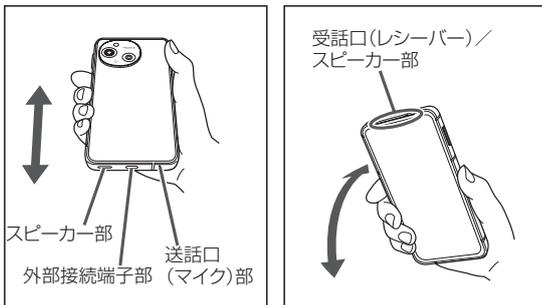
水に濡れた後は、必ず外部接続端子部、受話口(レシーバー)／スピーカー部、送話口(マイク)部、スピーカー部、キー部、サブマイク部、空気抜き部(カメラ飾り部)などの水抜きをしてください。

1 本製品表面の水分を乾いた清潔な布などでよく拭き取る



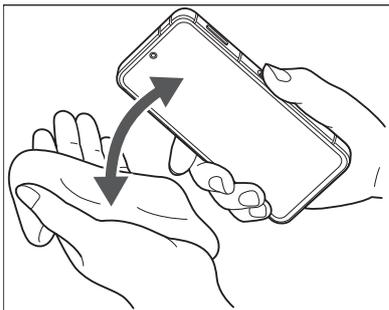
2 本製品をしっかり持ち、20回程度水滴が飛ばなくなるまで振る

周囲の安全を確認して、本製品を落とさないようにしっかり握って振ってください。



3 各部の隙間に入った水分を、乾いた清潔な布などに本製品を軽く押し当てて拭き取る

各部の穴に水がたまっていることがありますので、開口部に布を当て、軽く叩いて水を出し、水や異物が入っていないことを確認してください。



4 乾いた布などを下に敷き、2~3時間程度常温で放置し、乾燥させる

水を拭き取った後に本製品内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。

隙間に溜まった水を、綿棒などで直接拭き取らないでください。

■ 水抜き後のご注意

水滴が付着したままで使用しないでください。

- ・通話不良となったり、衣服やかばんなどを濡らしてしまうことがあります。
- ・外部接続端子などがショートし、火災、故障の原因となるおそれがあります。
- ・寒冷地では凍結し、故障の原因となることがあります。

■ ソフトウェアを更新する

本製品は、ソフトウェア更新に対応しています。

最新のソフトウェアに更新することで、最適なパフォーマンスやセキュリティ向上を実現し、最新の拡張機能を入手できます。

・ソフトウェア更新が必要な場合には自動的にソフトウェアをダウンロードして更新します(OSアップデートは除く)。

1 ホーム画面→「アプリ一覧画面」を表示→[設定]→[システム]→[システム アップデート]

ソフトウェア更新が必要かどうかの確認を開始します。「アップデートを確認」をタップして確認します。ソフトウェア更新が必要な場合は、ソフトウェア更新用データをダウンロードし、インストールすることができます。

以降は画面に従って操作してください。

■ OSアップデートを行う

OSアップデートとは、本製品のOSのバージョンアップを含むソフトウェア更新です。OSアップデートも、ソフトウェア更新の機能を利用して行うことが可能です。

1 ホーム画面→「アプリ一覧画面」を表示→[設定]→[システム]→[システム アップデート]

ソフトウェア更新が必要かどうかの確認を開始します。「アップデートを確認」をタップして確認します。ソフトウェア更新が必要な場合は、ソフトウェア更新用データをダウンロードし、インストールすることができます。

2 【ダウンロードとインストール】

以降は画面に従って操作してください。

◎ステータスバーにが表示されている場合は、ステータスバーを下にスライドし、通知をタップして画面に従って操作してください。

◎ソフトウェア更新中も他の機能をご使用いただけます。

ただし、ソフトウェア更新の通知後10日間は、ソフトウェア更新中に他の機能を使用していると、インストールが一時的に停止されます。「再開」をタップすると、インストールが再開され、他の機能も使用可能になります。

■ ご利用上のご注意

- ・十分に充電してから更新してください。電池残量が少ない場合や、更新途中で電池残量が不足するとソフトウェア更新に失敗することがあります。
- ・電波状態をご確認ください。電波の受信状態が悪い場所では、ソフトウェア更新に失敗することがあります。
- ・ソフトウェア更新を完了するには、本製品の再起動が必要です。
- ・ソフトウェアを更新しても、本製品に登録された各種データ(連絡先、メール、静止画、音楽データなど)は変更されませんが、更新内容によってはお客さまが設定した情報が初期化される場合があります。お客さまの本製品の状態(故障・破損・水濡れなど)によってはデータの保護ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、更新前にデータのバックアップをされることをおすすめします。
- ・ソフトウェア更新に失敗したときや中止されたときは、ソフトウェア更新を実行し直してください。
- ・ソフトウェア更新後に初めて起動したときは、データ更新処理のため、数分から数十分間、動作が遅くなる場合があります。所要時間は本製品内のデータ量により異なります。通常の動作速度に戻るまでは電源を切らないでください。
- ・海外利用中は、ソフトウェア更新の機能を利用できない場合があります。
- ・ソフトウェアの更新中は、移動しないでください。
- ・OSアップデートを行うと、以前のバージョンへ戻すことはできません。

■ ソフトウェア更新が実行できない場合などについて

・ソフトウェア更新に失敗すると、本製品が使用できなくなる場合があります。本製品が使用できなくなった場合は、J:COMカスタマーセンターまでお問い合わせください。

故障とお考えになる前に

<https://k-tai.sharp.co.jp/support/>

故障とお考えになるまえに、上記サイトの【機種別サポート情報】で、通信事業者と型番を選択し、選択したモデルの【サポート情報】項目で【よくあるご質問】を選択してください。

知的財産権について

■ 商標について

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。



携帯電話機の比吸収率(SAR)について

※本項目における【SHG14】とは、本製品【AQUOS sense9】を示しています。この機種【SHG14】の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準^(※1)ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)で定めており、携帯電話機に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この携帯電話機の頭部におけるSARの最大値は1.231W/kg^(※2)、身体に装着した場合のSARの最大値は0.423W/kg^(※2)です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、携帯電話機の出力は小さくなります。

この携帯電話機は、頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用するなどして、身体から1.5センチ以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにしてください。このことにより、本携帯電話機が国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合していることを確認しています。

世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用を原因とするいかなる健康影響も確立されていません。」と表明しています。SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

○総務省のホームページ:

<https://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>

○一般社団法人電波産業会のホームページ:

<https://www.arib-emf.org/O1denpa/denpa02-02.html>

○シャープのホームページ:

<https://k-tai.sharp.co.jp/support/sar/>

※1 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。

※2 この値は同時に使用可能な無線機能を含みます。

FCC Notice

*【SHG14】 here refers to this mobile phone 【AQUOS sense9】.

- This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.
- The device is electronically labeled and the FCC ID can be displayed via the About phone & the Regulatory labels under the Settings menu.

■ Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help and for additional suggestions.

Warning

The user is cautioned that changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

■ FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.

Highest SAR value:

Model	SHG14
FCC ID	APYHRO00334
At the Ear	0.52 W/kg
On the Body	0.51 W/kg

This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.0 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.0 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of belt clips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found at <https://www.fcc.gov/oet/ea/fccid> under the Display Grant section after searching on the corresponding FCC ID (see table above).

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at <https://www.fcc.gov/general/radio-frequency-safety-0>.

Regulatory information

*[SHG14] here refers to this mobile phone [AQUOS sense9].
In some countries/regions including Europe**1, there are restrictions on the use of 5GHz WLAN that may limit the use to indoors only.
Please check the local laws and regulations beforehand.

※1 Belgium [BE], Bulgaria [BG], Czech Republic [CZ], Denmark [DK], Germany [DE], Estonia [EE], Ireland [IE], Greece [EL], Spain [ES], France [FR], Croatia [HR], Italy [IT], Cyprus [CY], Latvia [LV], Lithuania [LT], Luxembourg [LU], Hungary [HU], Malta [MT], Netherlands [NL], Austria [AT], Poland [PL], Portugal [PT], Romania [RO], Slovenia [SI], Slovakia [SK], Finland [FI], Sweden [SE] and United Kingdom (Northern Ireland) [UK (NI)], Switzerland [CH], Liechtenstein [LI], Iceland [IS], Norway [NO].

Norway: Use of this radio equipment is not allowed in the geographical area within a radius of 20 km from the centre of Ny-Alesund, Svalbard.

Hereby, SHARP CORPORATION declares that the radio equipment type SHG14 is in compliance with Directive 2014/53/EU.
The full text of the EU declaration of conformity is available at the following internet address:
<https://jp.sharp/k-tai/>

Manufacturer's Address:

SHARP CORPORATION,
1 Takumi-cho, Sakai-ku, Sakai-shi, Osaka 590-8522, Japan

• Frequency range of supported bands in EU

GSM 900	Tx 880.2 to 914.8 MHz Rx 925.2 to 959.8 MHz
DCS 1800	Tx 1710.2 to 1784.8 MHz Rx 1805.2 to 1879.8 MHz
WCDMA FDD I	Tx 1922.4 to 1977.6 MHz Rx 2112.4 to 2167.6 MHz
WCDMA FDD VIII	Tx 882.4 to 912.6 MHz Rx 927.4 to 957.6 MHz
LTE Band 1	Tx 1922.5 to 1977.5 MHz Rx 2112.5 to 2167.5 MHz
LTE Band 3	Tx 1710.7 to 1784.3 MHz Rx 1805.7 to 1879.3 MHz
LTE Band 8	Tx 880.7 to 914.3 MHz Rx 925.7 to 959.3 MHz
LTE Band 28	Tx 704.5 to 746.5 MHz Rx 759.5 to 801.5 MHz
LTE Band 38	Tx 2572.5 to 2617.5 MHz Rx 2572.5 to 2617.5 MHz
LTE Band 40	Tx 2302.5 to 2397.5 MHz Rx 2302.5 to 2397.5 MHz
n1	Tx 1920 to 1980 MHz Rx 2110 to 2170 MHz
n3	Tx 1710 to 1785 MHz Rx 1805 to 1880 MHz
n28	Tx 703.0 to 748.0 MHz Rx 758.0 to 803.0 MHz
n40	Tx/Rx 2300 to 2400 MHz
n78	Tx/Rx 3300 to 3800 MHz
Bluetooth	Tx 2402 to 2480 MHz Rx 2402 to 2480 MHz
WLAN 2.4GHz	Tx/Rx 2412 to 2472 MHz (BW:20 MHz) Tx/Rx 2422 to 2462 MHz (BW:40 MHz)
WLAN 5GHz	W52(U-NII 1): Tx/Rx 5180 to 5240 MHz (BW:20 MHz) Tx/Rx 5190 to 5230 MHz (BW:40 MHz) Tx/Rx 5210 MHz (BW:80 MHz) W53(U-NII 2A): Tx/Rx 5260 to 5320 MHz (BW:20 MHz) Tx/Rx 5270 to 5310 MHz (BW:40 MHz) Tx/Rx 5290 MHz (BW:80 MHz) W56(U-NII 2C): Tx/Rx 5500 to 5700 MHz (BW:20 MHz) Tx/Rx 5510 to 5670 MHz (BW:40 MHz) Tx/Rx 5530 to 5610 MHz (BW:80 MHz)
NFC	Tx/Rx 13.56 MHz
GNSS	GPS: Rx L1 (1575.42 MHz) GLONASS: Rx G1 (1598.0625 to 1605.375 MHz) Galileo: Rx E1 (1575.42 MHz) BeiDou: Rx B1I (1561.098 MHz)

• Maximum transmit power

GSM 900	+33 dBm (Power Class4)
DCS 1800	+30 dBm (Power Class1)
WCDMA FDD I	+24 dBm (Power Class3)
WCDMA FDD VIII	+24 dBm (Power Class3)
LTE Band 1	+23 dBm (Power Class3)
LTE Band 3	+23 dBm (Power Class3)
LTE Band 8	+23 dBm (Power Class3)
LTE Band 28	+23 dBm (Power Class3)
LTE Band 38	+23 dBm (Power Class3)
LTE Band 40	+23 dBm (Power Class3)
n1	+23 dBm (Power Class3)
n3	+23 dBm (Power Class3)
n28	+23 dBm (Power Class3)
n40	+23 dBm (Power Class3)
n78	+23 dBm (Power Class3)
Bluetooth	+12.0 dBm (Power Class1)
WLAN 2.4GHz	+15.0 dBm
WLAN 5GHz	+11.0 dBm
NFC	0 dBμA/m at 10 m

■ Mobile Light

Do not point the illuminated light directly at someone's eyes.

Be especially careful not to shoot small children from a very close distance.
Do not use Mobile light near people's faces. Eyesight may be temporarily affected leading to accidents.

■ Battery - CAUTION

Use specified Charger only.

Non-specified equipment use may cause malfunctions, electric shock or fire due to battery leakage, overheating or bursting.

The battery is embedded inside the product. Avoid removing the embedded battery since this may cause overheating or bursting.

Do not dispose of the product with ordinary refuse. Follow the local disposal regulations.

Charge battery in ambient temperatures between 5°C and 35°C; outside this range, battery may leak/overheat and performance may deteriorate.

■ Laser (proximity sensor)

Do not stare into proximity sensor.

May temporarily affect eyesight, leading to accidents.

EN60825-1:2014/A11:2021



■ Volume Level Caution



To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.

■ European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.

The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear is 0.39 W/kg**2 and when worn on the body is 0.73 W/kg**2.

For body-worn operation, this mobile device has been tested and meets the RF exposure guidelines when used with an accessory containing no metal and positioning the handset a minimum of 5 mm from the body. Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines.

As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head.

**2 The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.